

町田に新拠点

ロータリーエンコーダの専門メーカー、マイクロテック・ラボラトリー（相模原市南区上鶴間本町、☎042・746・0123）は、約4億5000万円を投じ、東京都町田市に研究開発（R

ロータリーエンコーダなど開発

&D）拠点を新設。本社や町田工場にいたR&D部隊を新拠点に集約した。集約により既存工場の空いたスペースで生産能力を高めるほか、エンコーダや新規事業として始めた「ダイレクトドライブモーター」の開発ニーズにも対応する。

町田市中町4丁目新設した「中町開発センター」は、地下1階、地上3階建て。総床面積が約1200平方メートル。研究者10人ほどが勤務し、エンコーダやダイレクトドライブモーターの新製品開発に当たる。



して増産に対応する。

■3000種類を生産

同社が製造販売するロータリーエンコーダとは、モーターなどの角度に関する情報を電気信号に変換し、信号を処理することで位置や速度などを検出するセンサーユニット。工作機械や医療機器分野など、あらゆる産業で使われている。

身近なものでは、エレベーターの停止位置やプリンターの印刷位置などの角度を検出する際に不可欠なセンサーとして活用されている。同社でノ



笑顔の紙面作り

小紙の場合、大新聞とは異なり、紙面作りに対する読者（取材先）からのご意見を、作り手側が直接聞くことがよくある。その中で出てくるのが「紙面に人の写真が多すぎる」とのご指摘だ。

確かに「製品開発の記事にはモノを中心に載せるべきであって、決して人ではない」というのは正論だ。実際に記事と製品写真のみを掲載している経済紙・業界紙も少なくない。ただ、作り手のわがままだが、ここだけは譲れない。

なぜなら、製品のアイデアを出すのも「人」、作るのも「人」、そして使うのも「人」だからだ。

そのため、新製品の取材に行っても、必ず人と一緒に撮影し掲載している。

それも「笑顔」でだ。

作り手も笑顔なら、使い手もきっと笑顔になるに違いない。そう信じながら、いつも不慣れた写真撮影に協力してもらっている。

中小企業の製品開発には必ず「人」のドラマがある。そして喜怒哀楽がある。機械化や自動化がどんなに進んでも、やはり「人」なくしてモノづくりはできない。

一つの製品から見え隠れする人間ドラマ。そこまで掘り下げた記事を書ければ、いつも考えている。

これからも、人の笑顔であふれる経済新聞を作っていきたい。

（千葉 龍太）

R&D部隊集約



モーター事業も本格化

はエンコーダを少量多品種で一貫生産しており、その数は年間3000種類に上る。一方で、エンコーダの技術を応用し、ロボットなどの駆動源となる小型ダイ

マイクロテック・ラボラトリー

レクトドライブモーター（DDモーター）も開発。新規事業として展開している。

同社のモーターは小型ながら、従来品と比べると3～5倍のトルク（回転力）を実現。さらに従来は不可欠だった減速機（ギア）も不要とした。「高性能磁石と高密度巻き線技術により実現しました」と二関社長。

今後はエンコーダとともに、同製品の需要もロボット分野を中心に見込めるとしており、会社の2本柱の事業として育成。年商も20億円規模を目指していく。

石英の新価値創造

鎌田理化学器械製作所（綾瀬市吉岡東、☎0467・76・5353）は、石英の加工を専門にする珍しい企業。

半導体産業や測定器、医薬品関連産業向けの精密部品などを手掛ける同社だが、1959年の会社創立以来、初めてとなるB to C市場向けの自社商品開発に乗り出した。

石英は、耐熱温度が1100度と高く、透過率や耐薬品性も優れている。金属イオンの影響も受けにくい。高温下での微細加工が可能。「非常に機能性が高い素材です。10分の数ミリ単位での加工が可能です」と佐野則之社長。

綾瀬の工場では多品種少量生産が



鎌田理化学

基本だ。

ただ、最近では石英を取り巻く環境が変化しているという。例えば、海外で半導体製造装置の大型化が進み、微細な石英加工部品の需要が減少するなど、先行き懸念材料が増えつつある。そのため「今までにない業種との協業が必要」（佐野社長）と考え、石英の加工技術をフル活用した新商品開発に乗り出すことにした。

その一環として、現在、石英を用いたキッチンツールを開発中。今年度中の販売を予定。石英の新たな価値を創出していく。

自社商品開発に着手



社長さんが知っておきたい冠婚葬祭のマナー

ここ数年「社葬」を行う企業は減っているようですが、その必要性から見直されてきております。これからシリーズでは社葬について説明していきますので、保存版としてご活用下さい。

まずは「社葬」とはどういったものかをご説明いたします。

社葬というのは、会社の創業者や会長・社長など、会社の発展に尽力した功労者が亡くなった時や、社員などが勤務中に不慮の事故などに遭って亡くなった時などに、遺族だけではなく会社も主催者として行う葬儀のことをいいます。

社葬と一般のお葬式では、施主（葬儀の費用を負担し、主体となって執り行う）や、葬儀の目的・趣旨が大きく違います。



社葬についての基礎知識① ～社葬と個人葬の違い～

一般のお葬式では、施主はご遺族であるのに対し、社葬は故人の所属していた「企業」になります。そして、葬儀の主体が企業になり、企業の経費で葬儀が執り行われます。

一般的な個人葬は、亡くなった方を弔い哀悼をすることが目的であり、弔問を受ける葬儀主催者である喪主と、葬儀の費用負担・葬儀責任者である施主がおおむね同じです。

社葬の場合は、故人を弔い哀悼をするのはもちろんですが、故人が企業に遺した業績や功績を讃えたり、企業の今後の体制が盤石であることなどを知らしめ、参列した方々に引き続きの支援を求める役割も併せ持っています。

それゆえに社葬を執り行うということは、社会的な意味合いの強いものになります。（清水誠葬具店・副社長清水ふじ代）

2022年に上場目指す

ユニバーサルスペース（横浜市港北区新横浜、☎045・548・8829）は、2022年に東証マザーズへの上場を目指す。横浜市内でこのほど開催された同社の10周年記念式典で、遠藤哉社長が明らかにした。09年1月設立のベンチャー企業。「介護リフォーム」というニッチ分野ながらも急成長しており、営業エリアを全国に拡大している。



介護リフォームで

10周年

介護リフォームは、高齢者がいる住宅で手すりを付けたり、段差を解消したりする。「介護と建築の知識を組み合わせた新領域です」と遠藤社長。

同社は「介護リフォーム本舗」のブランド名でフランチャイズ（FC）展開しており、加盟店になれば、必要な知識を学ぶ研修から、実際の顧客開拓までの全てをサポートする。

超高齢化社会を見据え、同分野に進出したい工務店やリフォーム業者などがFCに

ユニバーサルスペース

加盟。現在までに全国57店舗、グループ年商は7億8000万円に達した。

同社は22年上場に向けたロードマップとして、今年中に100店舗を計画すると同時に、IPO（新規株式公開）の準備も開始する。そして20年に170店舗、22年には250店舗にしてい

■130人参加し式典

同社は設立10周年を記念した式典を同市港北区でこのほど開催。FC加盟店舗や協力会社など、130人が参加した。遠藤社長は「創業後の企業生存率は、日本の場合、10年後で6・3%しかありません。そうした中、いろいろな人に支えてもらい、やってこ

りました。この先20年、30年と社会から必要とされる強い会社を目指します」とあいさつ。式典では社員による決意の

バット折りや、景品をかけたじゃんけん大会などのイベントも催された。参加者たちの笑いが終始絶えず、大きな盛り上がりを見せていた。

身の丈IoTツール集合

低コストで導入しやすい「身の丈IoTツール」にテーマを絞った展示会が3月12日午後1時半～同6時半まで、相模原市立産業会館（同市中央区中央）で開かれる。

「ものづくりIoTツール展示会」と銘打った同展示会は、相模原商工会議所工業部会が主

催。県内13商工会が協賛する。入場無料（事前申し込み不要）。人手不足解消や生産性向上の切り札として期待されるIoTツールだが、中小・

小規模企業には普及していないのが実情。その

ため、今回のような展示会を通じて導入を後押ししていく。

当日の出展予定数は24社。各社ともユニークな「身の丈IoTツール」を展示する。また、会場にはIoTコーディネーターが常駐。IoTについての知識

がなかったり、活用法が分からなかったりする中小製造業（ユーザー側）と、専門的な説明をしがちな出展企業（ツールベンダー）との「通訳」の役割を担う。

《かながわ経済新聞設置図書館》

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ 神奈川県立図書館 | ☐ 鎌倉市中央図書館 |
| ☐ 相模原市立図書館 | ☐ 大和市立図書館 |
| ☐ 相模原市立相模大野図書館 | ☐ 海老名市立中央図書館 |
| ☐ 相模原市立橋本図書館 | ☐ 厚木市立中央図書館 |
| ☐ 横浜市中央図書館 | ☐ 町田市立図書館 |
| ☐ 座間市立図書館 | ☐ 藤沢市総合市民図書館 |
| ☐ 綾瀬市立図書館 | ☐ 秦野市立図書館 |
| ☐ 川崎市立中原図書館 | |

3月12日に展示会